



3月園だより

2022年3月

尚徳福祉会

沼袋西保育園

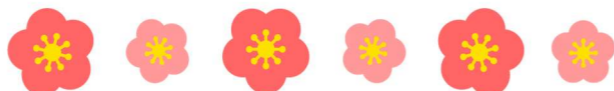
園長

厳しかった寒さがようやく和らぎ、園庭の桜の蕾の膨らみが春を告げています。

いよいよ、本年度もまとめの月を迎えました。進級する子、就学する子、それぞれが期待を持って新年度を迎えられるよう、一人ひとりに寄り添い保育を充実させていきたいと思ひます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、園内行事、保育活動と試行錯誤の一年となりました。そのような状況下でも、子ども達は変わらず元気で、笑顔で、いつもそんな子ども達から、私達保育者が勇気と元気をもらっていました。そして、保護者の皆様にはあたたかなご理解とご協力を頂きましたことを職員一同、心より感謝申し上げます。これからも保護者の皆様と一緒に子どもたちの育ちをサポートして参ります。

残り僅かな日々も、子ども達の気持ちや言葉をしっかり受け止めながら大切に過ごしていきたいと思ひます。一年間、本当にありがとうございました。



☆3月の予定☆

- 1日(火) 避難訓練
- 2日(水) 幼児身体計測
- 3日(木) ひなまつりの会
- 4日(金) 乳児身体計測
- 10日(木) 0歳児健診
- 15日(火) 2歳保護者会
- 16日(水) 1歳保護者会
- 17日(木) 0歳保護者会
- 19日(土) 卒園を祝う会
- 24日(木) 0歳児健診
- 25日(金) 幼児お別れ遠足

※7日・14日の各月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆4月の主な予定☆

- 1日(金) 入園進級を祝う会(幼児組)
- 5日(火) 避難訓練
- 6日(木) 0歳クラス懇談会
- 12日(火) 幼児身体計測
- 13日(水) 乳児身体計測
- 14日(木) 春の健診(幼児)・0歳児健診
- 19日(火) 1歳クラス懇談会
- 20日(水) 2歳クラス懇談会
- 27日(水) こどもの日の会
- 28日(木) 春の健診(乳児)・0歳児健診

※4日・25日の各月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆お知らせ・お願い☆

○ご家族でPCR検査を受けられる方がいる場合は園にお知らせくださいますようお願いいたします。

○お子さんに発熱や呼吸器症状等がある場合は登園を控えていただき、解熱後24時間以上が経過するまではご家庭で様子を見てください。また症状によってはかかりつけ医に受診して登園の可否の判断を仰いでくださいますようお願いいたします。なお、同居のご家族に発熱等の体調不良が認められる場合は、お子さんもご家庭で様子を見ていただきますようご協力をお願いいたします。

○園内滞在時間の短縮にご協力をお願いいたします。

○3/22(火)～各クラスとも進級に伴って移行期間に入ります。環境が変わることで不安なことも出てくるかと思ひます。お子さま一人ひとりの気持ちに寄り添いながら進めてまいります。気になることがございましたら担任までお声掛け下さい。保育室の移動にあたり、3/18(金)に一度すべての荷物のお持ち帰りをお願いいたします。移行に関するお知らせは、後日配布予定のお手紙でご確認下さい。靴箱は4/1～移動となります。

○3/25(金)は幼児組おわかれ遠足です。公園でゲーム等をして楽しみます。

○年度の変わり、児童票、緊急連絡先、保育時間、土曜保育、家庭保育等に変更のある方は担任までお申し出ください。

保育園に入れる

「0～3才個性を伸ばす 能力を育てる」

主婦の友社 東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏

0才児保育は充実している

お母さんが仕事を続けたいと思ったとき、たいていの場合、昼間の時間は赤ちゃんを保育園に預けることとなります。ところが、昔ほどではないにしても、赤ちゃんのときから預けるなんてかわいそうとか、だいじょうぶかしらといった周囲の声は相変わらず、せつかくの決心が揺らぐこともあるでしょう。

0才から預けることへの不安が消えないのは、保育の現場がイメージできないからということもあるのではないのでしょうか。その場合は、実際に見せてもらうとよいでしょう。たぶん驚かれると思うのですが、0才児保育はいまはずいぶん充実しています。

ふつう、最低で3人の子に保育者1人ですが、それに保健婦さんや栄養士さんが加わったりしますから、赤ちゃん8～10人を4～5人の保育者で見ることが多いのです。0才児保育は世界じゅうで日本が最も進んでいるといわれるほどで、保育の現場を知ると、「これなら、私が仕事を辞めて、そのためにイライラしながら家で赤ちゃんを育てるより、保育園に預けるほうがずっといいかもしれない」と感じるお母さんも多いようです。

ただ、問題は0才児保育を行っている保育園は少なく、少子時代のいまでもなかなか入りにくいという点でしょう。これは行政にもっとしっかりしてもらわなくてはなりません。

それでもやっぱり保育園は育児のサブ

育児休暇のとれる職場がふえてきたのは嬉しい限りですが、さて休暇を終えて1才前後に保育園に預けられるというのは、人見知りのピーク時にいる赤ちゃんにとってはつらいことかもしれません。むしろ従来のように産休明けの生後3ヵ月くらいのほうが、適応しやすいとはいえるでしょう。早い時期のほうが、2カ所で親密な関係をつくりやすいからです。しばらくの間、相当の大泣きが続くことは覚悟しておいたほうがいいでしょう。しかし、それもやがて慣れます。

こうして保育園生活が順調にいったとしても、そして、どんなに保育者が一生懸命に対応しても、やっぱり親と同じにはなれません。保育園はあくまでサブなのです。

働くお母さんは、子どもとふれ合う時間が短い分、いっしょにいられる時間は濃密に接してあげてください。たまった家事はあと回しにしても、子どもと遊び、話し相手をしてあげてください。もっとも、そんなことを言われなくたって、お互いに会いたくて会いたくてしかたないのに昼間は離れているのですから、きっと精いっぱい親子関係を深め、いっしょにいられる時間を楽しんでいるに違いないと思ひますが。

こんな調査が少し前の新聞にのっていました。育児がつらいとか、いやになったと思ひたことがあるが、という問いに、「あります」という答えが最も高かったのは、さっそうと街を歩きバリバリ仕事をしてきたのに、子どもができて心ならずも仕事を辞めたという母親群だったそうです。次が、結婚した最初から家庭に入っていた専業主婦。最も低かった、つまり育児への満足度が高かったのは、なんと働いているお母さんだったそうです。

